

3. 特筆すべき活動（（1）・（2）でA4用紙1枚）

（1）全学の教育研究に関する組織改編等への取組と協力、特色ある教育GP等の採択状況と取組、21世紀COE等の採択状況など。

① 平成18年度 保健学科全学教育科目出講科目一覧を以下に記載する。本学科の全学教育に対する部局負担担当原則である計8単位と、その他に「基礎ゼミ」を2コマ開講し、全学教育に対して、応分の取組と協力を行っている。

- ・展開科目類 自然科学群 「生命科学B」2単位 林教授
- ・展開科目類 総合科学群 「カレントトピックス科目（現代の保健・医療から人間のWell-beingを探る）」2単位 吉沢教授他12名
- ・共通科目類 情報科目群 「情報基礎A」2単位 佐藤（行）助教授他3名
- ・共通科目類 保健体育群 「体と健康（健康科学IV）」2単位 田村教授他12名
- ・共通科目類 転換・少人数科目群 「基礎ゼミ（健康に生きる）」2単位 石田教授他4名
- ・共通科目類 転換・少人数科目群 「基礎ゼミ（臨床検査における生体および検体情報とは）」2単位 大高 教授他7名

② 東北大学21世紀COEプログラム 医薬開発統括学術分野創生・人材育成拠点 CRESCENDO メンバーとして、小林教授、高橋教授の2名が加わっている。保健学科として、平成17年度から同COEの2～3名のフェローを受け入れている。

（2）その他、特筆すべき研究・教育・診療・社会貢献等への取組と成果、世界的位置付け（ISI citation など）など。

① 大学病院における診療・看護の実践を通じた医療への貢献と、実践を生かした教育と研究：参考資料2に示すように、教員の多くが大学病院における医療に貢献している。

② 市中病院における看護学教育を通じた社会貢献：現在の看護の質を向上させるために、各病院の看護部では看護業務に関する評価研究を行うべく取り組んでいる。しかし、欧米諸国の病院のように看護研究部門を備える病院はなく、病棟の看護職がそれを担わなければならない。しかし、多く病院では看護修士、博士をもつ職員は極少数であり、看護の研究指導を行うものがない状況である。従って、看護学専攻教員への需要はたかく、現在教員が個別で仙台市内の病院に出かけ、指導にあたっている。ますますこの需要は高くなっていくものであり、これに応えるべくシステム化の準備を進めている。

③ 豪国ブリスベン クイーンズランド工科大学との国際交流：平成17年度日本学術振興会外国人招へい研究者（短期）等の受け入れ等を足がかりに、豪国ブリスベン クイーンズランド工科大学衛生保健学部看護学科と保健学科の学科間協定を平成18年4月10日に結んだ。

④ 保健学科教員による Highly cited papers (ISI citation)（参考資料3）：被引用件数が100件を超えるものは、分子遺伝学、内分泌学、感染症・免疫学を中心に、17編を数える。平成8年5月に東北大学医学部で行われた「論文の被引用回数」では、被引用件数が100件を超える論文は、基礎医学18講座で43編、臨床医学21講座で28編、障害科学専攻6分野で0編、加齢医学研究所15分野で21編であった。以上を斟酌すれば、保健学科の17編という数字は、十分、現医学系研究科の論文の引用件数に比肩しうる数といえる。他方、項目79に記載の様に、研究費や研究設備が不十分であるため、研究の継続には難渋している。